

編集と発行

金木町企画室

金木町大字金木字朝日山323
電話 53 2111 (代表) 内線40



昭和59年11月号 (第223号)



鳴戸橋が完成 親子三代で渡り初め

金木町と五所川原市藻川地区を結ぶ県道蒔田一五所川原線に新しい鳴戸橋が完成し、さる十月六日、渡り初めが行われたほか、中央

公民館では竣工式が催され、新しい橋は、全長百八十八・二メートル、幅員八メートルのモダンな橋で、この日行われた渡り初めには、森田稔夫五所川原市長、古川竹夫町長をはじめ、蒔田の白川重一さん、五所川原の開米忠造さんの親子三代が、夫婦そろって左岸の藻川から右岸まで神主を先頭に渡りました。

旧十川に架かるもとの橋は、木橋で老朽化が激しく大型車などを通行止めにしてきたもので、昭和五十四年に新鳴戸橋建設に着手。総工費六億七千六百万円、六年を要して完成しました。

新しい鳴戸橋の完成により、蒔田、藻川両地区はもとより、二つの市町を結ぶ生活道路としての役割を担うことになり、森田、古川両首長も大喜びしていました。

また、このあと、中央公民館に場所を移し、工事関係者ら約百五十人が出席して工事竣工式典が催され、鳴戸橋の完成を祝いました。

顕彰碑除幕で 大祭に終止符



勸請四百五十年を迎えた金木八幡宮で、さる十月二十三日、総代ら約四十人が出席して、記念顕彰碑の除幕式が行われ、大祭に終止符をうちました。

神事のあと、除幕された顕彰碑は、岩木山麓の自然石二基を土台に縦約一メートル二十センチ、横約二メートルの黒みかげ石で、「萬緑や神鎮もりて遙かなる」と彫られています。

また、この日は、歴代宮司の名がずらりと刻られたもう一つの顕彰碑も披露され、金木菅林署から払い下げられたヒバ材で作った鳥居の完成も合わせて祝い、四百五十年大祭事業を終えました。

10月31日現在	前月比
世帯数	3,902世帯 + 3
人口	14,322人 - 20
男	6,889人 - 9
女	7,433人 - 11

ガンリンスタンドの
日曜営業案内

11月4日	第一日曜日
飯塚商店	52 5 5 5 5
11月11日	第二日曜日
三上石油	52 2 3 7 0
11月18日	第三日曜日
吉方石油	53 2 5 3 4
11月25日	第四日曜日
黒川石油	53 2 7 3 2

「第10回町民文化祭」 第4回産業まつり

昨 year 上回る六千人

十一月二日から四日までの三日間、第十回町民文化祭と第四回産業まつりが、中央公民館を主会場に開催され、昨年を上回る延約六千人の町民で賑いました。

どのコーナーも作品に見入る人でごった返していましたが、入賞者は次の通りです。

◎将棋大会

小学校の部①齊藤大啓(金小四) ②松川知道③沢田涉、沢田貴弘(以上金小六)

中学校の部①岡田淳一(金中三) ②小林光信(金中一) ③木下祐樹(南中二) 福井純(金中一)。

一方トレーニングセンターでは、習字、図画をはじめ農産物の展示や米質鑑定競技、もちつき大会、仔豚大レースなども催され、親子で楽しんでいました。

また、三日の文化の日には、連合婦人会食堂は大入り満員。

対馬篤③桜庭日出男、蝦名健治。



◎書道・金賞①徳田貢、杉山圭子、藤田明子(以上金小一) 古川鈴子、白川通子(以上金小二) 外崎時子(喜小二) 加藤千里、久保田真、金本牧子(以上金小三) 加藤五月(金小四) 小松健春(喜小四) 今麗子(喜小四) 泉谷寿美子(川小五) 松川喜代子(喜小五) 小野真由美(喜小五) 延里美奈、角田多佳子(以上金小六) 吉崎奈々子(喜小六) 白川歌織(金中一) 原田雅子(金中二) 岡田千賀(南中三) ◎図画、金賞①吉田寿志(金小一) 原田さとこ(川小一) やなぎのりひと(喜小一) 前田国心、秋元浩樹(以上金小二) 古川大晴(喜小二) 葛西武士、唐牛武志(以上金小三) 桑田朋枝(喜小三) 山田真由美(金小四) 泉谷武志(川小四) 大橋晴美(喜小四) 白川瑠子(金小五) 其田昌桂(川小五) 山中一孝(喜小五) 山中貴美子(金小六) 秋元文子(川小六) 広瀬勝(喜小六) 田中琴音(金中一) 梶浦靖子(金中二) 松川佳



澄(南中三) ◎工作・金賞①葛西武士(金小三) 齊藤大啓(金小四) 白川こず枝(金小六) ◎農林産物品評会・金賞①沢田政孝(玄米) 東町営農組合(大豆) 泉谷セツ(こぼろ) 其田秀幸(大根) 泉谷タマエ(ニンニク) 鈴木



フミエ(葉たばこ) ◎農産物利用コンクール ▼奨励賞①外崎信夫(大豆の天ぷら) 加藤千枝(早漬たくあん) 工藤雪子(かぼちゃクラッカー) 徳田静子(米粉のむしパン) 加藤礼子(かぼちゃのパウンドケーキ) 其田文子(米うどん) 白川キヨ(鯨もち) 泉谷タマエ(にんにくのしそ漬) 吉田ツエ(なすのちりみ漬) 齊藤テツエ(きゅうりのかす漬) ▼ふるさと賞①秋元ミヨ(五色おはぎ) 協議会長賞 齊藤テツエ(ほっけのすりみ巻き) 秋元トシ(きな粉巻き) 工藤セチ(ぶどうジャム) 泉谷カチ子(大根葉のそぼろ) 徳田照(ようし) 泉谷カツノ(かす漬) 宮崎ヤエ(みそ漬) 大橋トミエ(もち) 白川キヨ(ポテトチップス) ▼努力賞①八幡よし(梅ドーナツ) 秋元トミ子(かぼちゃポタージュ) 工藤米身

◎水稲良質多収共励会、最優秀賞①工藤繁勝、優秀賞②白川忠治、中谷肇 ◎米麦質鑑定競技 ▼団体の部、金賞①川倉転作組合、銀賞②下蒔田転作組合、銅賞③沢部転作組合 ◎個人の部①工藤正道②白川兵蔵③中谷秀照、中谷肇 ◎おにぎりコンクール ほんのぼの賞①中村節子、角田みつ、秋元とみえ



よい人に心からの一票を 金小6年 中島 由美子

金木の新名所

「きぬたの小道」



金木俳句会、砧吟社（平川清会長）で、二十五基の句碑を嘉瀬観音様に建立し、十月二十八日、除幕式を行いました。

除幕式には、関係者約四十人が出席。亡くなった会員の慰霊も込め、仏式で行われました。

句碑は、山形産の自然石に会員の最も気に入った一句が刻まれた黒のみかげ石を埋め込み、町内を一望できる位置に二十五基建立され一周約百メートルを「きぬたの小道」と名付けられました。

昭和十九年に結成された同吟社は、昔、夜遅くまで続けられたトントンという洗たく物をたたく「砧」の音が忘れられず、末長い会の興隆を願ひ砧吟社として発足したもので「五七五」の十七字を楽しんでいます。春の新緑から冬のスキーまで、四季を通して見るこ

「マッチ一本火事のもと」 幼年消防クラブが呼び掛け

秋の火災予防運動（十月二十二日～二十八日）期間中の二十三日、消防団、消防署による街頭パレードに金木幼稚園幼年消防クラブも参加し、ポンプ車九台を含め総勢百七十名に上る大

パレードが実施されました。あいにくの雨の中、その日のハッピー姿で街頭に繰り出した園児たちは、鼓笛隊を先頭に、福長勝義消防署長手作りのまといを振り、拍子木を打ち鳴らしながら



あいにくの雨の中 元気にパレード

戸籍の窓

十月

おめでと

前田 修司（正廣） 神原

- 松尾 大志（志郎） 金木
- 田中 珠李（悟） 嘉瀬
- 高松 敏也（洋一） 金木
- 吉田 統（斎） 金木
- 津島佳代子（伸治） 金木
- 今 輝彦（武美） 喜良市

はじめまして

修司 ちゃん

9月29日生まれ

体重 3,700g

神原 前田 正廣 次男



おしあわせに

- 松谷 浩（勝雄） 中里町
- 渋谷 明美（長一郎） 金木
- 内海 久登（喜代市） 嘉瀬
- 小笠原里美（清司） 車力村
- 吉崎 勝（喜代志） 嘉瀬
- 鈴木美佳子（鉄造） 中里町

おくやみ

- 延里 リツ（70） 金木
- 津島 賢輔（70） 金木
- 泉谷 幸見（60） 喜良市
- 澤田 竹次郎（77） 嘉瀬
- 桑田 東太郎（89） 喜良市
- 原田 ヲリ（83） 中柏木
- 田中 照義（69） 川倉
- 木川 ヤサ（75） 喜良市
- 佐藤 光辛（嘉七郎） 板柳町
- 古川ゆかり（竹治） 金木
- （川端 修（洋）） 金木
- （小山美根子 治三郎） 青森市

ボヤが発生するアクシデン

「マッチ一本火事のもと」と元気な声で火災防止を呼び掛けていました。

また、この日の呼び掛けにもかかわらず、喜良市でもかかわらず、喜良市で一層強化しました。

一日消防士を体験して

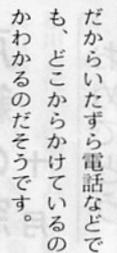
消防士を体験してもらい防火意識を高めよう。と津軽北部消防事務組合(竹谷善朋消防長)では、さる十月二十六日、管内七中学校の生徒を対象に一日消防士を開催。金木からも四人の生徒が参加し、体験を作文にしてみました。

金木南中学校三年

鳴海 美保子



今までの私は、消防署という所もよくわかりませんでした。又、それほど深く知ろうともしませんでした。



でも、一日消防士を体験して、事故が起きて医療を必要とする場合の救急医療サービス等をする仕事があります。消防署では、常に私達地域住民の健康と生命を守るために、日夜頑張っているのです。ただ、火災の起きた時は消火してくれ、重病人が出た時は運んでくれるだけの仕事のように思っていた私は、本当に感心する思いでした。

消防署内を見学して、おもしろいと思ったのは、通信室です。通信室には、火災の時電話が入るので、途中で相手側の人が電話を切ってしまうと、通

信室の受話器を切らないで、おきさえすれば、相手側にコールが鳴り響く、という仕組みになっているのです。だからいたずら電話などでも、どこからかけているのかわかるのだそうです。このようにして、消防署の職員は24時間この部屋で電話があつた場合のために待機しているのです。次は訓練です。消防署の職員の訓練を見せてもらい

ましたが、その動作のものがすごく速い事にびっくりしました。す速く、しかも正確に物事を行うのは、見ていても気持ちのいいものでした。

これはやっぱり、訓練された消防署員でなければ出来ない事だと思いました。私達も消火訓練に参加させてもらい、防火服を着るのも、消火器で少しの火を消すのも実際にやってみましたが、なかなかうまく出来ず訓練の大切さを、実際に火災が起こった場合の苦勞がよくわかり、とても大変な仕事なのだなあと感じました。

ぼくは、一日消防士を体験して、消防士という職業に、難しさ、そして住民を守る大切さを感じました。また、睡眠時間が少なく、たくさんの仕事がありました。その仕事の内容は、消火だけだと思つていましたが、ガソリンスタンドなどの査察の仕事もあることも知りました。



金木中学校三年

白川 隆 康

中学校最後の年に、このような良い体験が出来て、本当に良かったと思います。この体験を今後いろいろな面に生かして、自分も社会に役立つ人間になりたいと思います。

青森県は、火事の死亡者が、全国で第三位ということを聞き、ショックでした。どうしてこの青森県が三位であるのか不思議でした。その原因はまず、消防士の

人員が少ないことが一番の問題です。その理由は、特に入家が火災になった場合、一分でも、一秒でもはやく消火するためには、消防士の数が多いと、はかどるか

最後に、一日消防士に参加して、現場に出動するときの動作のはやしには、「脱帽」という感じですが、これ

が、途中で相手側の人が電話を切ってしまうと、通



消火器による消火訓練 むずかしいなあー。

が、途中で相手側の人が電話を切ってしまうと、通

が、途中で相手側の人が電話を切ってしまうと、通